

□□□□□□

# みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係(内線417) へどうぞ。

## 山田湾内の大鮪と鮪網人②

父、母と話し合って鮪網人に決めた。白石漁場には沖、岡と2つあり、番屋は白石ランブ生活。数多くの大漁の中、沖網4丁目新釜などの漁況も分かる中、新釜の大漁の様子が入ってきた。昔から新釜で大シビの漁がある

## イラストコーナー



寝グセ君 (船越・14)

イラストどんどん送ってください♪



と、白石で大シビが網へ入ると聞いていた。新釜の漁より2、3日後、大シビへの期待と緊張が走る。網起の日、網を手にして間もなく「大シビだ！」と、声が上がります。俺初めてのシビ、それも生きて泳いでいる。網人と大シビとの格闘が続く。網人が勝った。大

物だった。皆で祝杯を上げる。市での貫八十何貫と聞いた。何日かして前の大シビより、大きいものが入った。この漁期、白石では2本の大漁であった。それでも白石より岡方の織笠浪板崎でも大シビ一本を水揚げしており、湾内でもこのように大シビの大漁が有るのを覚えておいて欲しいと思う。

山崎 卓三(大浦・?)

## 列車が走る日を 楽しみに



「あ、上野駅」の歌を聞きながら、五十年前、嫁いで来たの人生の出発点と重ねています。ひなびた織笠駅ホームに列車が止まると、窓から田仕事をしている私を呼ぶ声が聞こえてくる。手を休めて、懐かしい古里の訛で少し話し、発車。この下り列車に乗り帰りたいと思ったことが、多々ありました。

母親の言葉に「ひと山越えても旅なんだよ」と、教えられたことを思い出しています。平坦な道だけではありませんでしたが、古里を思い浮かべ、自分を励まし望みを持ちながら、78才になりました。大沢川のトンネルを出ると、大海原が見えてくる。古里に来たなあ、もうもろ忘れて心がなごみます。もう一度、列車が走る日を願っております。

菊地 サカエ(織笠・78)

## お祭りに参加して

東日本大震災後初めての鎮魂と復興を祈願してのお祭りに、複雑な思いで参加した。

お祭りといえば、いつ、どこにもぎやかで地域の人々が、気持ちを一気にしてお神酒を酌み交わし、心の底から喜び、地域のこれからの夜が更けるまで語り合うものだ。

祭り当日は、神輿渡御は自粛し、荒神の浜にて神事が行われた。荒神社の祭典には、踊りの三役として田の浜からは大神楽、船越からは湾台虎舞と山の内剣舞が御神座を賑やかに舞う。

荒神社岬に大海原から寄せる母なる大海の恵み。網にかかる銀鱗で浜の大漁と今なお、行方も分からず、家族のもとに帰れない御魂。また引き取る家族へ一人でも多く、一日でも早く帰れることの鎮魂を祈り、海の彼方まで届けと官司、神官が大きな声を限りに祝詞を奏上。参加した者も心からの祈りをささげて、お祭りは後半になり幣帛に御神体を納め、大漁と豊作を祈願し厄病をはらい清め、神事の全てを終える。

今後も旧船越村の鎮守の森として、地域の皆さんの心のよりどころとして古き伝統を守り、受け継ぎ早期の復興を願いたいものです。

西館 隆(船越・80)

※幣帛：神道の祭祀において神に奉獻する物の総称

## やまだ文芸広場

病得んたゆる我れを医康つる  
医師の力のありがたきかな

猫達の暗き面かげ夢に見て  
我れ後悔の涙こぼるる

昆 ユリ(織笠・80)

汚水をくぐりて淨きハスの花

風音にまぎれて鳴く蝉の声  
姿は見えねど朝に夕に聞く

終戦日われ黙禱し空仰ぐ  
遺骨は今も異国に眠る

内館 洋一(飯岡・?)

下心  
すっかり読まれ立つせない

思い出を

大事にすべき歳となる

芳賀 誠一(豊間根・71)

お盆に来た

孫達帰れば爺と婆

佐藤 兼男(荒川・86)

幸の風

一人欠けずに吹いて、  
福幸の秋風となつて...

佐藤 啓子(山田・?)